

老没

萎れた葉をむしり
萎れた花を噛み
萎れた茎を折り
引き抜いて細い根を
破壊を好む俺の手の中に
紫色にやつれ果てた
土気色の膚が舌にへばりつき
グロテスクな老婆の唇は干からび
何十年ぶりに膚は赤らみ
腰突き出して喘ぐ様に
破壊を好む俺の血が騒ぐ
(冥土への土産だ、その快樂が)
諦念などは全て偽りよ
ちょいとくすぐれば、ほれこの通り
永劫不滅の欲望が眼を覚ます
(ああ、吐き気がする)
老いさらばえてなお没落の味を知れ
さあこの真実を持って行き
落ちるがいい、地獄へと

(1985.1.12)